

# 学校ビオトープ



学校ビオトープ造成前(左)と造成後(右) (埼玉県所沢市立清進小学校)



作業風景 学校ビオトープを子どもたちや地域の住民と共につくることによって、参加意識と事業への理解が得られる。



学校ビオトープは、地域の自然をネットワークするための拠点となり、環境教育の場としての役割も果たす。



学校ビオトープにつくられた池。水辺の自然は復元が早く、トンボやカエルがすぐに戻ってくるため、教育的な効果大きい。

## ●学校ビオトープの整備

通常、学校は学区ごとにある程度の距離を保ちながら分散しています。したがって、各学校が学校ビオトープに取り組み自然を取り戻していくことで、地域の自然がそれぞれつながりをもつようになります。また、学校の敷地内に地域の自然を確保する学校ビオトープは、環境教育を効果的に進めるための「生きた教材」としても高い意義をもちます。

学校ビオトープをつくるにあたっては、まず昔から周辺地域にどのような自然があったのかを調べて、その結果を踏まえ復元すべき自然のモデルを定めます。学校の敷地内という限られたスペースに多様な種類の生きものを誘致できるよう、小面積に多様な環境を組み合わせることが多いようです。

次にトンボや野鳥など、誘致の目標とする生きものの種を具体的に決めます。植物の植栽は外来種や園芸種ではなく、地域に自生する高木・中低木・野草などからなる自然の植生を意識します。また校庭にビオトープを設けるだけでなく、屋上や壁面なども在来植物で緑化し、地域の生物の生息空間を増やしていくと、自然のネットワークを生み出すことができます。